

名 称	第 6 回 鹿沼市総合計画審議会議事録
日 時	平成28年9月30日(金) 10:00~11:45
場 所	鹿沼市民情報センター 学習室
出 席 者	別紙のとおり(委員 19 名、市側 20 名)
内容及び 結果等	<p>(進行：袖山課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会長あいさつ <ul style="list-style-type: none"> ・市長から「いちごいちえ」と聞いているが、鹿沼のいちごは市場の^{たてね}建値である ・いちご農家は5~6反でやっていくのが一番効率が良い、それ以上になると手が回らなくなり、品質にばらつきが出てしまうという ・どの商品を取っても品質が良いのが鹿沼 ・鹿沼もまさに品質、人の良さが揃っており、ちょうどいい大きさ ・鹿沼も総合計画も、いちごの様に、ひとつのことをぐっと持ち上げて、それが周りも引っ張っていくようにしたい ○ 市長あいさつ ○ 新委員紹介 ○ 議 事 <ul style="list-style-type: none"> (1)「第7次鹿沼市総合計画」について <p>【星野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人を育む」の中にも、もう少し、盲ろう者のための生活支援や学び場の提供などを盛り込んでほしい <p>【矢野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西大芦小が廃校なるが、コミセン(CC)建替えの時期なので CC 機能を廃校に移す予定だと聞いている。そうすると CC は地域で活用させてくれるのか？地域の話し合いの中で議題も出ている <p>【渡辺委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林認証を更に活かすため、栃木県全体で認証取得し、ブランド化していきたい。 ・災害林道の復旧と獣害対策 ・鹿沼ヒノキは日本一の材質、杉板材・柱材等収益の高いものを軸に持続的山林経営が必要 <p>【吉野委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、老年人口の増加が懸念される ・地域経済活性化には、まず雇用。企業誘致等を進める ・宇都宮への転出者が多い。宇都宮から鹿沼に帰る遅い電車が無い。住みやすさも改善していかなければならない <p style="text-align: center;"><裏面へ続く></p>

【本田委員】

- ・特に育児環境、保育、学童保育の鹿沼の空き容量はどうか？
- ・宇都宮との子育て環境の比較はどうか？
- ・子どもを預ける際に様々な苦勞があると聞いている、データはあるか？

⇒【市長】

- ・西大芦小、来年度閉校。上粕尾は今年度(子ども3人、職員6人である)
- ・地域振興のため、西大芦 CC をどう活用するか検討中。CC 機能は学校へ移行
- ・CC の活用は地元と意見交換していきたい
- ・定住には、雇用の確保が基本。新産業団地整備予定。2次産業だけでなく、3次産業でも、まだまだ鹿沼も魅力的な地域だと見られていると認識している
- ・災害が少なく交通利便性良いことで、東京からバックアップオフィス等を誘致していきたい
- ・出生と死亡の増減は厳しいが、社会増減は特に頑張っ、克服していきたい

⇒【企画課長】

- ・この場で全ては決められないが、各論に盛り込むべき内容は、各課へ割り振る
- ・障がい者の学びについては、検討していく
- ・栃木材ブランド化については、県との関係性
- ・JR 日光線の終電については、市長と JR に訪問し、要望している
- ・学童保育の容量状況、宇都宮との比較のデータはないが、各論の中で検討

【高橋委員】

- ・夢は市内中高生が、外国人を英語で案内できること
- ・高校生がアメリカ訪問した際、引率の英語教諭に留学経験があり、現地人とすぐに打ち解け、スムーズに行動でき、生徒にとっても非常によい体験となった
- ・英語の検定試験だけでは会話はできない。異文化コミュニケーションが重要
英語教諭が文化や正しい発音を伝えてほしい。ALT は時間的制約ある
- ・そのために、市の教員を海外に派遣して学ばせる(市費で)

【鈴木委員】

- ・子どもの遊び場が弱いので重点的に、早急に
- ・ゴルフファミフェスタ、きれいな芝で子どもを遊ばせられると良い。年1回ではなくもっと行ってもらいたい。外からも人を呼び込める

【小島委員】

- ・高齢化の中、生涯活躍・シニア世代の支え手として、高齢者の役割を充実
- ・支えてもらうのではなく、支える高齢者へ、生涯現役の機運を高める方策

<裏面へ続く>

【小和田委員】

- ・産業振興、雇用創出、人口増に貢献したい
- ・金融機関のネットワークを活かし、協力していきたい

【大塚委員】

- ・体のメンテナンス推進のために、CCなどに身近なスポーツ環境の整備必要
- ・筋力アップで寝たきり防止。高齢者ばかりでなく子どもから全ての市民がスポーツできるように

⇒【企画課長】

- ・中学生の案内ボランティア、地方創生事業でやっていく。英語教員の話は教育委員会で検討していく
- ・子どもの遊び場は重点事業で進める
- ・ゴルフ場、関係課で検討
- ・高齢者の活躍、関係課で検討
- ・産業振興は必要な取組
- ・身近なスポーツは、関係課と調整

【木嶋委員】

- ・東京出身であり、鹿沼の自然や水は素晴らしいと思っている
- ・子どもを育てていくには、良いまちだと思う、生活にも不便ではない
- ・都心部で移住を考えている子育て世代にもっとアピールし、定住化へ
- ・生活モデルプランも示してはどうか
- ・秋祭り、東部台と中心市では温度差があり、一体感が無い。せっかく素晴らしい祭りなのに。小中校の歴史教育などで秋祭りを活用し、子どもの自信を深めていくことも必要

【枝村委員】

- ・庁舎整備についてのスケジュールが出ていない、市民周知すべき
- ・“自分事”、という表現が押しつけがましい。第6次の際はもう少し柔らかかった

【江田委員】

- ・会議の時など、もっと鹿沼の水をもっと使っては？観光のPRにも水は良い

【鈴木委員】

- ・博物館をずっと要望している。鹿沼の自然や産業、発展の歴史、彫刻屋台も含め物語、ストーリーが必要
- ・屋台を見るだけで終わらず、物語が見える、市全体をまとめた博物館が必要
- ・花と緑と清流はどここの市にもある。いちごいちえの物語が聞こえるまちにしていきたい

<裏面へ続く>

【鈴木委員】

- ・県、東京有楽町に移住相談(暮らし・仕事)、ふるさと回帰支援センター
- ・各自治体との人の取り合い
- ・移住定住、山梨・長野希望者が多いが、寒さの関係で北関東に流れてくる
- ・どこに住むかはあまり決めず、支援体制がしっかりしている自治体が人気
- ・鹿沼市もどんどんしていくべき
- ・栃木県は田舎暮らし、都会的暮らし、2地域居住、通勤もできる
- ・鹿沼市はカフェや空き旅館の再生、シェアハウス、グランピング等、秋祭りも含め明確に強く計画書に記載してはどうか

⇒【企画課長】

- ・本日の会議でお出ししたのは西大芦の天然水。今後も活用したい
- ・定住シュミレーションをHPに掲載し、鹿沼なら東京よりもゆとりのある暮らしができる等アピールを検討
- ・ユネスコの趣旨は文化財を残していくこと、秋祭りも担い手確保が課題
- ・庁舎整備は各論の部分で内容を深めていく
- ・“自分事”、の表現は総合戦略のフレーズだが、整理していく
- ・まるごと博物館、ハードというよりソフトの部分で物語を残していく
- ・ふるさと回帰支援センター、活用させてもらっている
- ・全国の先駆的事業として採択された地方創生推進交付金事業で、潜在ワーカーとしてIJUターンや引きこもり、ひとり親世帯等の雇用にもつなげたい

【島委員】

- ・“自分事”の表現が気になる。日本語として一般的でない。使うなら注釈付けて
- ・部活動をやりすぎているか？毎週土日練習はどうなのか？家庭のだんらんを重視すべきではないか。家庭の日の定義もある。毎週1日は休みを設けてはどうか

⇒【鈴木会長】

- ・部活動のせいで地域行事への参加にも支障をきたしてしまうこともある

【大森委員】

- ・将来都市像、「花と緑の～」ではどこの市町にもてはまり、印象が弱い
- ・鹿沼の人は人情味があり、人情味という表現は良いと思う。いちごいちえとも結びつく
- ・人情味あふれる中心となる人に引き付けられ、どんどん人が集まってくる。鹿沼市にはそのポテンシャルがある

<裏面へ続く>

【榎本委員】

- ・明るい展望や希望が盛り込まれている
- ・いちごが食文化に根付いていない。生産と消費が結びついていない。単なるキャラクターやキャッチフレーズで終わらず、各事業に反映してほしい
- ・情報教育、情報化の進行で追いついていない
- ・インクルーシブ教育、法整備はとっくに終わっている。この教育の2点は、スピード感を持ってやってほしい

【鈴木会長】

- ・歴史に興味を持つ人が多いこと、人情味が鹿沼の良さ
- ・読書量を増やすのは、学校教育に位置づけ、毎日子どもが読書をする習慣を
- ・読書により実力と学力がつく、学力調査最下位ではなくなる
- ・五感が統合され、質の高い話し方ができるようになる
- ・地域にとってCCは重要。CCを充実させ、周りから鹿沼を盛り上げていく
- ・地域でする仕事が増えており、地域の先頭を引っ張っていく職員が必要。
地域担当職員

⇒【企画課長】

- ・土日の部活、検討していく
- ・“人情味”は第6次計画で使用したが、検討していく。鹿沼の特性ではあると思う
- ・いちごは食文化の中にも加筆していく
- ・情報・インクルーシブ教育はスピード感を持ってやっていく
- ・読書を学力向上につなげることを検討していきたい
- ・CCの活用は課題であり、地域総合振興型予算と合わせて、地域担当職員を検討している

(2) その他

- ・(事務局) 審議会意見の反映、今後の策定スケジュール等を説明

◇次回は12月16日(金)13時30分からを予定

○ 閉 会